

## 01 ベトナム初の国産麻疹ワクチンに日本が協力

5月21日、日本の技術協力により製造された麻疹ワクチンのベトナムでの販売が同国政府から承認され、今後、子どもたちに接種されることになりました。

子どもの死亡率低下と感染症予防のため、ベトナムではポリオや結核など6大疾患とそのほか4疾患の予防接種を推進するとともに、ワクチンの国内生産に取り組んできました。その中で、これまで唯一輸入に頼っていたのが、麻疹ワクチンでした。

そこでJICAは、日本の無償資金協力で整備された「ワクチン・生物製剤研究・製造センター」に対し、学校法人北里研究所生物製剤研究所の協力のもと、麻疹ワクチンの製造技術を移転。同センターは、ベトナムで初めて、世界保健機関（WHO）の医薬品適正製造基準を満たすワクチンを作ることに成功しました。

これにより、将来的には他国への輸出が可能になり、今後ベトナムが、周辺国へのワクチン供給拠点へと成長していくことも期待されています。



製剤技術を指導する様子

## 02 ガンバ大阪のユニホームやサッカーボールがマラウイへ

サッカーのJリーグ所属チーム「ガンバ大阪」が、JICAの「世界の笑顔のために」プログラムを通じ、ユニホームとサッカーボールを寄贈することになり、6月17日に大阪・万博公園のガンバ大阪練習場で贈呈式が行われました。

同プログラムは、開発途上国で必要とされている物品を国内で募り、青年海外協力隊などのボランティアを通じて各地へ届けるものです。当日は、ガンバ大阪の金森喜久男社

長と松代直樹主将が、チームのユニホーム24着とボール2個をJICA大阪の酒井利文所長に贈呈。酒井所長からは、受領書とともにJICA大阪職員が書いたガンバ大阪への応援メッセージが手渡されました。これらの物品は、マラウイで活動中の隊員を通じ、現地のユースクラブの子どもたちに届けられる予定になっています。

ガンバ大阪では、2006年にジュニアユースチームのコーチが協力隊の短期ボランティアに参加するなど、国際貢献活動を推進しています。JICAも今後さまざまな活動で連携を図っていく予定です。

## 03 JICA中部が開所式を開催

7月10日、名古屋駅近くのささしまライブ24地区に移転したJICA中部国際センターの開所式が行われました。式典には、海部俊樹・衆議院議員、神田真秋・愛知県知事、河村たかし・名古屋市長をはじめ、外交団、自治体・企業関係者、市民団体の代表者ら約180人が出席し、JICA中部の新たな門出を祝いました。

冒頭にあいさつした緒方貞子・JICA理事長は、「中部地域の活性化は日本全体を元気にし、広く国際社会全体の活性化にもつながります。このセンターが、『名古屋から日本と世界を元気にする』きっかけとなることを祈っています」と述べました。

このJICA中部には、国際協力が体感できる「なごや地球ひろば」が併設されており、6月1日のオープン以来、子どもから大人まで多くの来館者が訪れています。



テープカットに臨む出席者たち